法政大学学術機関リポジトリ
HOSEI UNIVERSITY REPOSITORY

PDF issue: 2024-07-28

節章句秘伝之抄

一 [illegible]の[illegible]ばかりのいわ出す事 云[illegible]わ多り
一 [illegible]不[illegible]もかろいを紙[illegible]もわ[illegible]
一 いのり[illegible]下[illegible]わ[illegible]
一 出[illegible]行[illegible]紙と云出[illegible]心[illegible]わ[illegible]
一 小[illegible]出[illegible]
一 うらいのくせ[illegible]のどやくうらいおのひら
[illegible]大[illegible]
一 仁[illegible]くせ[illegible]

一 [illegible]
一 [illegible]
一 [illegible]
一 [illegible]
一 [illegible]

次、扇子之大変

一 [illegible]

一 花娘子うごく次ハ海ゟろよ西まりあり
一 むかふへ出る時ハうしろ向舞し海しきに出へるべし
△海鳥此上ケ様之大変
一 女ゟさ又流ゟへまくの流ゆる様よ上るべし
一 男ゟさハあふき此ちりさけ行べし
一 山伏なら又扇うけ上へし 僧も同おし
一 天狗ハ扇うけ二番けほさ上るへし
一 鬼神ゟさまく行て次第行きへし
△杖もて乃大事

一 志しあらするなハ此ゟ様そてあるなり
一 わきへまきて目をも見つけあるなり
一 女ありてとろけて子内るなハわきてとあらしをとかり
目ゟくも見る也し 先行しりそとえはゟそて見ゆるり
又まる男乃おもそて出ん内志てとさて時ハ目をも見つけよく
見ゆるなり
一 厨の西のにに下をとある時ハおとうハとうふけひゟうの目
ゆるく見へし 此音のありてそもけ厨の西の内よそいや
去ゆへ天狗なきる面半足も至まであるなり

心ぞうしのわたり

一 西くぼ[illegible]そで出時屏風ゑ三百さいとろうしてさいへ出さくもの二間より中ろうしかくなへ初て出時のとくろうりあくらいたはさいをいけさびをとをくさきまわえへでうちんをいゆしーーーかうり出時二百さいとろうしてさいへ出うくふいはふいの時二百中さきをろうし居へ時二百よりたくえへしたのはちきちんさびんよ出し人さしゆびたゆへとゆ神乃上へ出もろうしゆめのうしいつもて出しうろうし

一 男衆ゑり出時三百さいとろうしてさいへ初て茶時二間さいとろうし出へ時出へ時のとくし

一 女物衆出時茶時三百中さきとろうし物るいふもふと者行しし変てしふるあたろうへ

一 男物衆ゑーかわ出へ時二百先とろうし茶時二百中先とろうし物衆物ふか能ゑ屏

一 僧の仕ゑ出へ時一つるし中先とろうし茶時二百先とろうろう

一 老松のさわ[illegible]物出百先とろうろう

一山伏を出へ時三朱の中銭と五ツ〻茶壺一ツ〻
三ツ銭とつかはし申し天狗ばてもの
一又兵衛の山伏を橋爪より出へ時二ツ〻中ばかり先銭
五ツ〻し茶時ゝて二ツ銭とつかはし候ハ〻大変ハあし
一かりきり代ハ二ツ銭中銭とつかはし
一男ハ橋爪より出へ時二ツ〻中銭とつかはし茶代ハ
二間ばかりとつかはし候銭不申しの通り人ハ銭一
をゝ人の男も厨もハ銭不用おし
一天狗ハ五ツ銭五ツ〻茶代ハ橋爪ばかりおし一た
くハ三ツ〻ハ人ばかりハ銭よりおし

一鬼ハ三ツ〻銭先とつかはし茶代ハ五ツ〻三ツ〻三ツ
銭とつかはし候去無ばかりて一ツ〻ハ行くべへ
十分ハ一宿と大変口代ハ
一四ツ物ハ山さんとうくまりおし一三ツ物ハ宮ばかり
をしろけひさ紙ばかりおし一七ツ物ハ六ツ物ハ
ちひとをとけて宮のうしとひかけたらさきとうけ
ばし一のき物ハ宮のうしとけくハ三つ物ハ
おかくばをのくて宮とけ一おし一五物ハ

[illegible]

又ぬき物ゝ[illegible]

つくぬき[illegible]

[illegible]

[illegible]

△こしらへやうの大変

一[illegible]

[illegible]

△扇の大変

一[illegible]

[illegible]

一石迴の時の[illegible]

[illegible]

一五月の事　席よりる時五(週)三ぶのうくとを一を
内ゝ長をたくふうたくさ葉なり

一扇をひろうる時右ぶ扇左ぶ(添)たりくゆいまく
ひろけたりうり一寸上を通しもし

一扇をとる時うの子高子ぶ手根たり一寸上にうけ等
一みくみやぶ又左(とるを用おうり

一うをめて(週)三ぶひちとたゝ　ぶまゝ行(週)ゝ
おひ一(ひちをりくをるうゝをあう花ゝ宗家

一ひさこの一高中入ゝ先ゝんゝ入いかけうゝ取ゝ扇ゝも
入しきじをと下(たけひさをとうくゝ引ゝ(ようくうり

一扇乃打拍小ゆいまゝ後ゝめゝ又左(ゝ扇の地ゝ一寸花
先きゝのゝてかうあたけうるゝ花上ケしゝ

一右(扇とりかゝめゝ記(ゝ色るおり地紙にけうるゝ花のけ
おゆゝゝと人ゝしゆゝとおうゝ後ゝ三ゝゆゝ一つあけゝ扇ゝ紙ゝ二つ
おうゝゝにけてゝゆゝひゝ右ぶかゝゝ記ゝ

一扇をとり(一時ゝるゝ三間花ゝよゝゝしゝゆゝ下とゝるゝ

一ゝうちはゝをゝ扇ゝるゝ右ぶゝゆゝるゝけてゝ取ゝ足

をかさくりろけ新たにもけ角一

一太鼓の口の舞扇とりくくりとけく角一志川の
たち舞いる時くりりとのさふくりゆけて孔や

△腸と大変

一僧口中ハ　二間と中先ゑろろ
一大臣腸ハ　口間先とろろ
一男腸ハ　仁ゆの男ゑくせ
一山伏し　大まゆめ一のくくせ
一口りさいきゑしをたるさ浪見と猿ようてたはろり

とて大口りりともかけりけ出一

一太夫物狂ゑたり八太夫の方尺つめて孔ろり
一かいこ云時ゑ文方先ゑろり

△二尺数能くゑ仕ゆ腸と大変

一尺ゑかけのこ一尺ゆし尺数能くゑ八ゑくゑ面
うしろ尺ゑ尺ゑ数ゑ花舞ゑ心持一寸ゑ口ゑ三ゑ花し
ちゑ二ツ残ゑ二ツ花ゑくりゑ一からすし

一云系つめゑいてしゑ小ゑ舞ゑ演ゑゑでし一

△尺乃大変

一式変番仕ゆ法一出ゑ口ゑ三ゑ小ゑ能ゑ出ス物し

一面とかなでしわ持ひまさ人の物ほうとこれ仕舞ふ

一翁の物ふいうふし多うくふむし　口伝ス

一口ヲ大長名乗治ヲ用いてうたを下のせふく張し

一名乗ヲてうたきを上かとに高張へしを行ヲてうしき

まくうつふを大てうし

一さしゆめてしを張ちわもとの調子ヲ成ス所也

一所羅地ヲうふ物大てうをうをゆ合張物ヲ

志ものうよいくらい一所入い物ちり

一小鼓　大鼓　太鼓　笛大つミ小鼓大鼓

笛も左文を関合ういかてあとを大文はとを執を

とも大文気よちくいうにをうをいつを大文気ちをを

△石極をを大変雖為秘抜抜これ抜ハ不張し

乃不義を相傳手夢ハ不可他言者也

元亀元年三月十七日　小次郎左判

△他ハ

一笛・小鼓　大鼓　太鼓　浮木と男ハ左文ハ水し

ちくどめを上ハ所ハ一流ちを方ちを流を

なをハ小水を上ハ

一 [illegible]
[illegible]
一 [illegible]
[illegible]
一 [illegible]
[illegible]
一 [illegible]
[illegible]

又ひとしき扇に云雪乃袖雪の袖袖とゝ云
はゝ扇袖袖乃さゝとゝ[illegible]
一 神腸は然に祝云くゝ[illegible]
は[illegible]の[illegible]不若女神男神何も同事也
一 天女ちとゝ孫[illegible]
[illegible]
一 [illegible]
[illegible]
一 男舞[illegible]

[illegible]

一扇子をうゝほ祢のかゝくとしてのけ祝云とり
ゑ一又茶よめとん扇子初し一さし一三茶や

一按ずる

△謡秘傳之変

一憲慕れ物人をくるふて来りとさめ又ぬけてた
れ乃ゝまゝ細をまり霜ぬれをを生別れとお
ゝ三ゝろゝ波思の生て枕をたゝへゝるゝと異
ゝとして面氣れ立時うと必身をゝり静めるゝ
仮ぐ生人よをゝふと思ふ時ぐれい生るを武位現れ
慮ゝ三ゝ不別まゝ

一神げれ物れをたゝ勉メ付物れ出てゝかゝるゝ

一親ゝ別せるゝ[illegible]

[illegible]

一他り物和しに不心よりて粗忽をいろゆるし

一獣物はなきうに多るをはなし

一女は男乃付るにあらずはかたう

一男は女はなれるに新しかくるし

右何と物に添うるはなしとへ[illegible]

一常政の仕りの出れ上[illegible]仕りの出れ日お仕に[illegible]とう

めす[illegible]

一僧脇ちいさ刀さすること三年寺開寺道成寺右三面

一の行り僧ハ[illegible]こうし下り僧ハ真也

一毋年五ゑ脇珠数持るハ[illegible]の間ハ静[illegible]

とり[illegible]ふるく者とふところに入れ[illegible]ハ[illegible]れ行会ハ

ふく珠数を出ス又ごゑの多んたうを樂ト云ハ[illegible]脇

思ひ入もとし又ハ[illegible]仕りを同ハ[illegible]

一[illegible]生ス[illegible]の出れ時地[illegible]笛生ス夏三て[illegible]

又面方ハ[illegible]て笛生スハ

一仕りの出の一セイノ付[illegible]ハ[illegible]ふ心ハ[illegible]

一脇[illegible]生ス[illegible]平[illegible]又戻れ[illegible]

一都僧は女色いかにも結構なり

一狂言は次第に静なる物なれども狂言のあらましを

さらりとして演ぜんせん為のあらはしなる故

ゆゑの舞初の所はゆるやかにもとくもなく

一鼓の初め一聲いたし長鼓打ちて次に眠より初

アリ初宮さん四方さんせん次に狂言

こゑ高くゆるやかに伺も位をきこえ

一言葉出し数を数こひ合せスこと

一狂言眠入居して流門の者世話ともに強く

のゆにもとて文殊の姿をかりて信ずべし又姫の

こゑを無ことを指とさして我家に指とさ消と云所眠

姫とこゑ高くと付ん

一藍染川は腹の内にてうたうみと四百ちこそいへと云て

いつとも平生と曲舞よわる

右之通訳世話狂言ともに一そう如流

一腹筋は腹をはりて夏の内ぬるよりは物と低つ

やうのうり上へあるく祝云

一胸は胸をくだりたりとも未ふるきへ作ものこ

札ハ愁の心にあるへし

一 清花の瑞籬をもて牢門毎澤と云処に籬をゆふて
隔ありとうし又掛ヶ杉原をさしき三をと水引
まてゆふしふところに入へし

一 朝長誓願寺探し出ハ詳情の気をもつてつく

一 衣裳ときりに大ゑり小ゑりにはをりて男にゆうとし
大男ハ大ゑり小男ハ小襟あるへし

一 花ハさうの花物を何いかわ物を出すへし

一 さしくまき目をみ合すへし 口伝

一 舟乃棹出すのすそへ人の肩まへへさすへし

一 馬の鞭ホしにさしてをめくらし出る時ハやりて
ゆみの内をおへなしてゆくへし

一 卒都婆小町論議問答の時ハ次第く住よ式方
へ寄るへし

一 清常の出ハ又ハ脇とハおなり 口伝

一 人の中にも小謡又曲舞なと謡時ハ小謡ハ松鏡
さて源氏やはいのハさうても謡う風なれハ忘ちかわり

曲舞ハ夕顔籠女

一位の御内乃時西ゝ[illegible]失にくわけの事ニテ
切しなさるゝに位のたうさ有る切乃板とたくし
ちゝ息うと切又西ゝも切乃くゝ通然ハ乃ゝ
一源氏供養ニさゝ位ノこるもいろにとけつこうなり
位ねるしや
一腸たいさいのハ[illegible]よゝ定のふゝやゝ又物衣のおゝ
ちゝ口付
一重衡ゝ衰傷又ゝ忘恋のいとをかろ[illegible]位し
一進行西行山住さいせう老のハ[illegible]

一百姓の服初ハいゝらいたゝ
一衣裳ときりにつゝき紙ゝりいま切又神ハ小袖
大ニおり
一白物ゝるゝの女ゝり物の下ゝ歩西ゝ物ゝりめし
一源氏かゝりなゝ上ゝ下きゝ[illegible]ゝ[illegible]
物ゝりゝり
一井筒ノ通ハ物語ゝ席ノ意し居宣意ゝり
ゝるゝるゝの不ゝし形見ゝ[illegible]ゝしのゝりゝ
一[illegible]位ゝ位ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ席の位

うゐ笠恋歌より冠とりにより女性舞によ
きいかりこと上首男が舞と行りきり静し
位修ゝ言るゝに拍子式能首ゝ上手と大変ア
ケへ太ノ鼓ゝ六ケ敷てもせ
一南寺脇僧ツレ三人チコナシ位人ハ脇地位ノ
皆拍子ゝ上ノ一人の位ゝ衰傷やさ〻位ゝ
なるもさらしとるこりテ吉し世舞ゝ上ちやう
ヤリ七夕のとる系行ゝと云不しさらアルこり
貴久ーさの公女祝云のゝ拍子ゝしトムケ不ノ位
いかにゝ和さ〻ゝ〻ーさゝ脇男の舞ゝ上首舞ニテ
天の舞ゝ式能序半序ゝ大変也
一移ノ位の位ゝ式ハ脇ノ位ゝ切ノ位ゝ脇ゝ皆拍
見ゝ仕ノ位ゝ皆衰傷ゝ半リ位ゝトアリ拍子
一松風位ゝ脇ゝ恋慕衰傷ゝ〻ノ舞位
かゝ〻り吉ゝ比ゝ天の舞ゝ〻ゝ仕ノ海ゝの〻アリ
一富士大鼓衰傷女ゝ恋慕ゝ
一拍子ゝ恋慕衰傷ゝ花ゝ〻ト月ゝ舞ニテ楽ゝ
一返魂香　衰傷ゝ

一杜若下ノ三ハ序舞上カリニ為てこらさと云
和アリ杜若ノセイヤ
一羽衣序ノ舞アリ衣とか（やあ問）袁傷や又衣と
きてつりハ哥ハ祝云ヲリ女ノ舞たや
一誓ふる位ハかさりこつてつ王羅の不ヲ孫勝ん
ハ持ニ一遍ヲリ
一三番神楽アリ上カリニ為てこらさと云和アリ
たやーー立回ヲリハ女性ーー
一守久ハ祝云

一春永後祝云初ハ儀理ヲリ
一小鍛冶　恋苦
一芦刈　祝云
一鉢木　義理
一常陸帯　恋苦
一西行桜　初花見花見行西行ヲリハ哥ヲ
一京清　袁傷
一小塩　脇方ハ花見ヲ行ハ意寿と合位ヲ花やヲリし
位アリ

一 楊付信一ホウ怠

一 鞍馬天狗初ハ稚児見シテかたや一悪尉

一 浮舟玉葛同女狂人の心アリ何モ位高し

一 花筐見限ら恋慕ヨリ狂乱

一 桜川タシく狂人

一 三井寺作り物狂

一 百万狂人

一 班女　恋慕ヨリ狂人

一 角田川一初メ母習ヲテ立さらさ狂女ノ様ニ哀傷

一 木賊狂人

一 丹後物狂

一 錦木タシく恋慕位ハ謡シナすヘやり仕舞ハ何モ

より行ヨキナリ

一 阿古木人目シナミの心

一 善知鳥一世并静ナリ善知鳥と云テカケリナリ

多折ノタシ面ハ久川の西たらさ折タルる也

うろと見ハ躰タシくましきナリ阿古木ハ泪シ

そうさ人目をしノシウ舞

一舟橋　恋歌

一女房花　恋慕歌ハ女房花ハかなやし
女房花ハ舟橋ハかなやしと歌ハ老れ物紛れ
一辛都崎小町か花ハいくさ花ハ
一檜垣　姫のそ様ハ辛ハ房ハ京トアレ共
老女ノ姿ハ房ハ京ハ房ハ
一岩改　女賤の花ハ
節と関ハ
花ハ
一松重住　歌不用　恋歌ハ
一天鼓　世上ノ花ハ
一耶鄭上人　ソミノ真ノランシヤウミノ出ル栄花
ハ
右ノ方ハ
初ノ替ウ楽ノ位ハ
ハ
のくん気や心トメ物ハ

一奏上位ニおくと云ることは川ゝうくと流つ吉

一獻ゆ舞陰ノ急位ニ言ふ是と急ノキワ宴ニ

メれ河原院鬼八孫ッテ鬼ノ姿トろ〻せろ〻

アリ白川院そう孫いの法とおこれろし守トシん

鬼ノ姿ニテ出ラレ名腰とゝ〻れさるとや六条ニ

テノ事ハ鬼ごろりろく急ノ八ッり

一山祖母仕ゆはノ出いらにて初とこき新宮ノ宮引

の山廻りカケり秋ノくんと云口伝アり初ノ女ノ位

廻やう移ち付く〻高りくと信つはも助ろり

一南テ位海士ニりハ如ノ

一海士ハ筆ノト云ニ扇子大臣ニかなめの方ニり流ス

ハ位やすニテハノ二井口伝アり位孫ニテ

舞ニさんスなる(ゆり仕手ナリシニテ舞ス

アり位南テニりツヨし

一石橋仕ゆ二人ノ時ハ新向の竹箒と一度ニ流其後

出ル二人ノ仕手ノ時ハ花を出シテハスヤウヤウノ

竹箒そうくッせしろ位仕ゆも太鼓と笛ニ

ゆカう歌ニ出やくそやと

一不舟 [illegible]

右九十三ケ条雖為秘所授、以拙言紙筆
[illegible]秘密不伝傳[illegible]夢、不[illegible]他[illegible]者
慶長十一三月吉日 [illegible]麿[illegible]公御相伝
寅[illegible]
一校了

一五音ノ変
一[illegible]付口伝明抜息五ノ変
一[illegible]一番ノ内位ノ変
一尉一通面ノ事
一同澡上ノ節後サシ
一早キ[illegible]遅キ[illegible]
曲舞キリノ事
一立曲舞稽リ目之事
一[illegible]ノ下ノ[illegible]変
一さげる節ノ稽目ノ[illegible]同中さわ目のと[illegible]

五音うゞ次第

イミ勢別設言八老七五律鳴淡弱為久男女牛ノ儀りて高こ死し

一祝云〻〻　言砂

イミ号
新代ノ松ニノ実ノイワサケル千トセノ中ケスニントヲモ八

不老こそ砂乃〳〵尾上の松ともゆりて老
の深もりくるやおれ下陰の落葉かくれて
命ふる〳〵百てれいりをれきの松そ久
しさ名不ろ松〳〵

△右祝云の深花春初ノ九祝と云ふ也

さう〳〵せこそ　おほ〳〵すなる〳〵ことく〳〵と不絶ろ
百角祝を又ろう祝よりそ云したせり〳〵家と立し
よ百ツの祝なゝ〳〵　家居よりとろ二へき不に
なりてつやく〳〵せさろん祝よりあろ百きろ〳〵家〳〵
面白かる〳〵ろ〳〵なり小愁へ〳〵ろこハ父ちゝと
又ろてい祝云の腸祝よりろ砂ろ中ろ〳〵ろ
深ろ内に一字も愁の初乃ろさと出舞も所
物深ろしつる仕手并太鼓笛よりと言まり
ろ〳〵ろ愁祝よ流及し

イニ有ニや々ニ毎ニ心ニナトヌくてそて流一も乞

一 花見ニハ 金札

上ニ かの淀より南良の方り里の神遊く

たちくる都路のあかたたきすら

かゝや伏見の里北に連くり大田山の下け

たくさ雲の上なる玉水の月もさりや

うくく花ん

イニ玉 去

△石遊見の浪様のひくとゆふくさらくと

イニ花山ニ又ニ日シ送ルヤコトシ花ニ云ノ花ニヤハラヤナルヘシ

まる夜しなまて花見にや帰りて酒ほさうへ

てなゆくさの竹乃たに見の花まもる出行

桜ふあしきの花ひかりとつふさしかり

夜と共にまつ花明さんと云徳のあるとれ

つくし世上ノハ禄ちくと籍種乙月借よ毎り

ひとんかとや言麻よ同乗る禄し花見北我い

果よ遠てにかえてにとも知てそや

イニ丑ニ而ニナヌ二宝ニ在ノりうくのやうりくりくてそし流一もし

一 恋慕ニハ 小督

イニハシ女 文人ノアクレアシタノ云ヘリ曲ニモ不法アリ 以ニ 恐ラレトモ文ニ毎ニケリ 教ニ点ハ物ヤ毎ヲト人ノ同ニノ

下ニ さそくに待宵やせとの勅定とい何とさは

隠そ従ゆや中りさ北薄り下まよしさらえ

ト前ハかくしさの袖ぬれて月よ何りさん

△右忠岑の證歌は又難しめて其やう那る所
アリうけたくうきやうなる不足りたとえ
小野にし宵いくしきのとこさのあし常の
所よそあしきなしけて気意へ草此世の時を
かなるるるまあこ割こにし此證よむそらにや
侍るとのありよく證し人様よしめとる證據
ゑしまや

一哀傷には　角田川

浅茅生ヤ袖ニ朽ニシ秋ノ霜忘レヌ夢ヲ吹嵐カナ

上
ねりてもくはこれは恋しくて
すみひたるそをのあえ川彼川
面影のさこめたるさせのあるこへろう
祇いの花盛る無常此嵐音係生死
ちやうやの月ぬ弟ふしやうの雲かな
ゐりるに同の哀乃うき世かれく

△右哀傷の證歌は花に誦めくさ変れし哀傷と
申は備え死ての別れにかきらうく欠老て無し
ここちおうま四方行ての恋しいなゝとのや
三の花に添らむし花もりを想しむ杯よかきる

もいとやさしく哀にあはれなるなどの所にて哀
は悲しきことなどもいふなり哀は悲しき
事なるもの知りとりてきたるよしなどせよ
といふことにしたがひてかくいとあはれなる
一能曲に　奇石

上

神風や伊勢の濱荻なびきてしらしらとてらすいとしるしもおぼしめす事なりとかの
すあるこころをもつてこころわとなるべきなり
さうに伊勢や月の出の年もとしの濱荻

△古能曲の位は極この大変なるものなり
なり変と書ものも多くは一変と書及し分と
強し能曲と云字に二色あり是は一つに能曲は
此三種ありとなり是は色々に位をつけたるなり
たとえば舞歌にも能ておほとなるはと
なりなりとは本のなる能なりとなるやうに
関曲は関の字は竹篭と云心の字なれば物の
のなり出なり極なれば第に位くさしを云延変

ひとこと聞きよりてまさまあるに一つの行ある
ニつよりてまたニつのみちさりおもてとなりて法
の花とそろしくり信ずるせいの弥陀の初宗尊
ちとの二宗世に出て法をひろめたることを
四百ゆくし寶盛のせいそろたけゆのさうし
自然花生のたくしえ敬白のあらうし敬白法か
うしの書しのあらうし西行桜と花のたくさう
くの来のたとりさうし泊瀬六代ちとみりさし
の内よ憂悲の薄衰草路の風よ滅亡ろう
ことしとりあらう巻も現と伝なく行方知
の境界ちとりあらうし京白の曲舞ちとと宿
孔曲ちて見人何ルも祈ちくと信藤ちぶう
ゆ二宗しうや太の五つ和曲よりどりてしく
かくし

乙上

右五音之次第五ケ条之通諸ケ寺之極意
ゆ受之伝法これ秘伝として如此験をしせ

△謡様秘傳之書

一 謡を謡ひ付口より息間にて吏先口の内にて上口にいる
まて上の句なとをよく聞合て下口になるかとおひ
とえ自由に何れへいひ出す口明しはらふ事へ
我こゆいとくつ唇てぬきさしをふかく吟しまでしる是
より明かに紀久を謡の折節ゆめにやしくあさ
き様にはげえしいきあはのし息ゑく息とりく
あてし音いきい切へ引息を継き音こころし吹息と
中の継のこそて能く息をうけ息を吹出し何も謡

の句間に呑くあひはえ聞しそろへ出る息あり
ゆゑくも信ほ入れ息えわるまてつまりてぬわをみる
ゆ吹りけてを呑息をうしやうん謡初むる時え
養相は謡を唇っし次息をよくく呑出さす
は都ゆと深こみはのた出しの継くる是第一の口
傳秘事なるて是代え〵て是秘事なるへくと
一 謡一番の行様を思えやすきやうにてそ心を
うるは筆にしし先此謡ふ為所乃義法をと
志りは次第に大臣の俗の使ふうえ大口とこそならね

の素袍かけ袴合の裏打ちことにし物よ候と
ことにや底なりよし大口脚はさらしくゆふくと
召候ものを忌むべき何にもよろしき候し僧正下は
おさへてみそさとやうよ行脚はそこにてよさしつまと
かけをとりて常に行る服なれとさのことさうに
なきそうよ素袍にても流しあわ商人のえ
そうして裏うちはさうしなとをかけよくさてしたるを
かしこに常有つくて外素袍のもの物にいふ人くはへ
よくさうしをとをすなし仕立紙に女性したる姿御

内裏にて宮女衣女房うくして別となし表着
女の年大きになくもとなまめしかる頃
あそびし舞の内は人常の扇半差とは称
花女より扇を扇と舞とめし是にて流れかな
しるへし次第の通りは女装りめしそんさは依て
ならさにしかは様によりけりうる事にて違ひ将軍にと
一常の厨の咲厨はさらくと云ふ秋の厨は祝ひの不
して待え氏也し咲厨小塩乃宗忠則のお精得と
にふくれ無別なし精得にて分貶くし出されたる康

おとさるゝと天鼓のおん衰傷つれなきあやうに
若和尚の前僧とうれんとおしむる三川の
四方へ入し三尺屏風の内へ北面修行男の体
をもつてかくれ入きし
一深山の前さゝつとたつて上に徳く念と入てゐる
ハさゝりとたゝ忘しきしは深のあれとも曲舞
水の流とのとしとは手しきわ徳白と切く流へと
し故よきわと必ずし徳白と切しなゝ下利故を
をつてゐるあれきしや
一早き徳流て時心とおーて静よ遅き流の内へ
心とさきへやりとしうくしおそきとそ心とも遅
へ流の孫くくしたくゝ成し早きとそ
よそやうれし流のおそうてゐたまつきし是一大
のゐるうしや
一徳の下に落ち内新れ忘きくぬ不とゝ乱まとりし
ゝて流ゝ流ゝうゝれ新ゝ成しのいきくぬ不流し
息とゝりてゐるうゝ
一主曲舞の勢め業意ゝと静ゝ三稿とゝうゝやに

一さうの法師は踏りめをの下（さうの）にうの中さうのあり
唯（ゆい）なとの下（さうの）夢のさうのさうの中（ちう）
中（ちう）に夢の中に死なるてんにんのとりうの字をの
下（さうの）にあるくしなるをとて三れ（ひ）ゝとの字をの
よりの字をの消ゆるのゆゑ字をうて何も三重ひ
つ横ゝてうのくゝをそれくゝ乃流てゝ面ゝてい
ひくくしや

△右指三ケ条、新秘事にて之を書名てに衣袋
付面付、先方宗義名法にしやうしうれ秘義

も人に伝し間敷しこれ懸れ目し人に漏をしを清
不審くゝ処三ケ条一ケ条義東面にしの傳シ秘ゝ
失念し処とし秘念と入方ゝ書付ゝ間紙書物
一ゝ為秘傳し弥深くゝ伝ゝ義ゝ法ゝ書物し
ゝくゝ伝也

慶長十一六月十八日　妙庵御在判

笑庭方　一校了

ゆるすフシ　こフシアタリ
サカルフシ　ナルフシ忘サリ
両文字アタリ以次ノフシ必サカルセ
ヒワスフシ拍上ルセ　ニワスユワセ
ヘキウノ意上ニ下ル
ヘモツテサクル　一拍モツフシサリ
ヒリフシサリフツテナカノイフセ
ヘニワス心しかしろこ　ヘ以フツテ拍上ルフシセ
フノムフシハスル心アリ　フツテノムフシセ

ユルフシ古キ章ニ在之
（クリ上ノ五リセ）　（キユリ）
（一三二二二二）　三（二二
（リ）　心カナ　松ルニアリ

以ヲノキワノフシアカシハ段ノ字カシラノフシ上セ大略如此也
一ホイカリ　ろわりかり　こそ　ケル　やしん
一ろろとろこ付ケ付ケテ二字上ニテ三字目ヒ下シ云セ
一南の字付ル事一字ヒリクニ字ヨさりセ
一入二字しほるいろり拍ヒ上サリ
一くるい拍ヒリよ二字ヒ上ろろり

一下と付事はかうとさうゝゝ位をゝりくさろと
付んや常のさろゝ計をいたせめし
一中と付る事是をもさゝ字よりも中よ行位ゝ中
とゝゝりしうゝゝ生を不を中ゝ小ゝめ式さうゝ八
さくろとはくゝゝ
一かゝゝと付んてをれゝ字ゝわかくろゝとゝよ
利とゝゝのうちゝゝとゝゝ
一次第と云事ゝ式乃序破急ゝちゝゝ別
一本ゝゆゝよ次第ゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

次第太文ゝ物ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
きてゝくゝゝ
一乃行の文字ゝゝゝくゝゝ
一二初にゝ百式一初ゝゝ二初ゝゝゝゝ二世ゝゝ下に傳
一さゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
一小流の文初ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
一ゝゝ上の物ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
一ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

一曲舞と立曲舞 居曲舞口伝事

一上の二字下の二字と云事 沼は流るゝ水

此二字をもて下の二字と云也 沼口の里に

名をよばれし とをもて上の二字と云也

一紙屋の事口伝 紙屋のしゐおし

うとよ 桐の花さく 井の上の山を見しよ

ろしく 西にむく 若葉 山 てのを字 柳

よ 雲にうとにうのを字 口伝

一おうちうこいのを句 うたをとをほやく 宴

たをはゆうろう

一庭 表 流のを口伝 句 ぢつめてふはの字 云 ぢ

一くさきいをしたるいとをくうとい 愛

ぢつをしたりをしろ物と 物 ぢ

一おうミ物 口伝

一陽 義 同音 かゆく 太 文 ぢ

流よかるる 一字との 陽 流

一ぢりの口伝 奇 云

切 ぢ 陽 物 ぢ

一[illegible]の[illegible]の[illegible]

一曲舞上[illegible]の[illegible]別[illegible]秘説口傳し

一[illegible]とさ[illegible]おの[illegible]の字[illegible]

一[illegible]山のたゝ[illegible]

一山よりも大[illegible]ね[illegible]山[illegible]

一[illegible]調　二氣　三聲　口傳

一女[illegible]

一[illegible]

一物[illegible]

一文字[illegible]別[illegible]

一[illegible]

一[illegible]

一[illegible]

一[illegible]

一[illegible]

[illegible]たとへ[illegible]の名すき草[illegible]
[illegible]
一恒政よ紅葉かの[illegible]
[illegible]
一紅世流よりと付とし[illegible]流よ志ほるとは付也又
紅世流[illegible]
[illegible]の流すは
一三月の一和よ山ゆ高二ツ[illegible]
月さんゆ[illegible]

一[illegible]ちめ[illegible]事の[illegible]次ちめ[illegible]
[illegible]
[illegible]
一[illegible]の木かけ[illegible]月
[illegible]人[illegible]山[illegible]花
一[illegible]と云[illegible]
[illegible]と云[illegible]
[illegible]
一七文字五文字之事口[illegible]

音無の月は宿をて
もるゝ風こゝに伏しをそ
温泉[illegible]
久永

永録三年三月二日